



こども家庭センターだより

明日もしあわせ通信 (第92号) 令和6年2月号

人中之竜(じんちゆうのりゆう)

私は、数多くのスポーツの中で大相撲中継を見るのも好きであり、今までで最も好きであった力士は、輪島・北の湖・貴乃花などが活躍した時代の輪島関でした。

輪島関が日大卒で入門した頃の頃は、最初から左下手を取りに行き、いきなり体を開いて下手投げを打つというような変則的な相撲を取っていました。相撲界の常識では、『上手は下手に勝る』と言われており、最初から左下手を取るとするのは邪道の相撲でした。

輪島関の師匠であった花籠(はなかご)親方は、左下手にこだわる輪島の相撲を決して矯正しませんでした。それどころか左下手を長所として捉え、最終的には左下手・右おっつけという型の完成に導き、『黄金の左』で大学卒の横綱として14度の優勝を飾るなどの大活躍をしたのでした。

当時の花籠親方が、ずっと以前にNHKのアナウンサーに弟子を育てる心構えを聞かれた時に『人中之竜』(出典：晋書)と答えていました。その意味は、『多くの人の中で非凡な才能を持つ人のこと』で、転じて『人は誰でも優れた才能を持っている』ということです。

私が思うに、花籠親方は短所を直すよりも、長所を伸ばす方により力を注いでいたのではないのでしょうか。

子どもを育てている親御さんや、スポーツを指導している方にも、長所を伸ばす視点で子どもたちを指導していただきたいと思います。七尾市出身の輪島関を思い、石川県の日も早い復興をお祈りします。以上「ことわざシリーズ⑩」でした。(E・F)



教育支援教室「はばたき」

演劇ワークショップで自分と向き合った教室生

2学期末に、はばたき教室の子どもたちが、俳優の岩гент氏とシンガーソングライターのNico氏と一緒に演劇体験を行いました。約2時間の活動が展開され、学校に行けない子どもたちにとっては「自分にできるだろうか」という不安と、「やってみたい」という期待で緊張を隠せない様子でした。

しかし、子どもたちは講師の迫力ある演技に、あっという間に吸い込まれ、自然に言葉を発する環境へと導かれました。当日は教育委員会の方も参観される中、何と教室生は個性あふれるパフォーマンスを発揮しました。子どもたちの言動が徐々に高まり、満足感が伝わってきました。

最後に講師の方から、「君たちは、今日ここに來ただけで十分です。今のままでいいのです。」と力強く話されました。これからも、子どもたちが自分と向き合い自分の思いをしっかりと伝え、力強く歩いていけるように見守っていきたいと思います。(H・T)



(二人組で自分を表現)

褒めてやらねば

毎週末に齢 90 歳を過ぎた義両親の介護に向かう。「大変ですね。」とよく言われる。確かに大変だが楽しみもある。

家内は細々とした家事、私は力仕事を中心に片づけていくのだが、何回となく義両親から、感謝とお褒めをいただく。「いつもありがとう。」「よく働いてくれるので助かる。」

親に褒めてもらうのはことのほか嬉しい。この歳になっても嬉しい。もっと親と密接な関係にある子どもの頃はなおさらだろう。



親は子どもを羨まなければならないと思うあまり、褒めるより叱ってしまいがちになる。子どもは親を喜ばせたいので努力をする。子どもにとっては、褒めてもらうための努力と叱られないようにする努力では、気持ちの在り方に雲泥の差がある。

子育てにおいては親には大変な忍耐力がいる。子どもが好ましからざる行動をしたとき、羨と称して自分の感情をぶつけてしまいがちだが、それを何とかコントロールして、子どもには褒め言葉だけをかけてほしい。

そして私たち夫婦は今週末も“いそいそと”義実家に向かう。(T.K)

おおぞら通信

辰年に思う

2024年が始まりました。干支の「辰」が描かれている年賀状もあります。「辰年ってどんな年？」とネットで調べてみると、架空の生き物である「辰」(竜・龍)は、水や海の神として祀られ、大自然の躍動を象徴するものであることや、権力の象徴として強大な力を持つことから、「辰年」は時代を動かす「変革」や「激動」の年と呼ばれるという記載がありました。

多くの方が、コロナ明けの平穏な日常を実感していた穏やかな元旦だったと思います。しかし、夕刻に能登半島で発生した地震と津波、2日の夕刻に発生した羽田空港での旅客機の衝突事故と、大変な現実と直面した方々がいます。

特に能登半島地震は、今(1月中旬)でも被害の実態が把握できておらず、復旧・復興には多くの時間を要しそうです。被災地の日常に繋がる息の長い支援をしていきたいものだと思います。

おおぞらでは、不登校や引きこもりへの支援をしています。困ったり、悩んだりしている保護者の皆様、まずはお電話でのご相談をお待ちしております。(T)

(☎ 989-5014)

発達支援巡回相談

備える

新年早々、大地震、事故等のニュースが飛び込み心の痛い年明けとなってしまいました。巡回でも避難についての話題が上ります。今回のあまりにも大きな被害を知るにつけ、今までの避難対策ではとても対応できない、早々に見直しをしないといけないなどの意見が出ました。では、こどもたちには大災害に対してどのような備えが必要だろうか? 思い巡らせてはみるものの……。一つ言えることは、一人一人が今の健康をしっかりと保つということです。食事、排せつ、睡眠など生活習慣を整えること。当たり前ですがあらためてその大切さを感じます。あと、被災地では口腔の清潔や軽い運動(ラジオ体操を始めたところも)も積極的に行われています。これらの情報も手掛かりにして具体的に考えていきましょう。(k)

伊予市こども家庭センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

